

硯の海に 波もなし
初日が始まる頃、波ひとつ立っていない。明治の俳人、詩人の正岡子規の正月の句。硯の海とは、墨を溜める深い部分。これに
対して墨をする部分を丘と言う。硯と言う狭い世界を海のように広い世界に見立てて「波もなし」と言い切ったところに、穏やかな雰囲気とそこに込められた新年の静かな決意
を感じられる。この句を好む書道家は多い。

高校 (D) 俳句

初日さす 硯の海に 波もなし 初日が始まる頃、波ひとつ立っていない。明治の俳人、詩人の正岡子規の正月の句。硯の海とは、墨を溜める深い部分。これに
対して墨をする部分を丘と言う。硯と言う狭い世界を海のように広い世界に見立てて「波もなし」と言い切ったところに、穏やかな雰囲気とそこに込められた新年の静かな決意
を感じられる。この句を好む書道家は多い。

硯の海に 波もなし
初日が始まる頃、波ひとつ立っていない。明治の俳人、詩人の正岡子規の正月の句。硯の海とは、墨を溜める深い部分。これに
対して墨をする部分を丘と言う。硯と言う狭い世界を海のように広い世界に見立てて「波もなし」と言い切ったところに、穏やかな雰囲気とそこに込められた新年の静かな決意
を感じられる。この句を好む書道家は多い。

高校 (D) 俳句

初日さす 硯の海に 波もなし 初日が始まる頃、波ひとつ立っていない。明治の俳人、詩人の正岡子規の正月の句。硯の海とは、墨を溜める深い部分。これに
対して墨をする部分を丘と言う。硯と言う狭い世界を海のように広い世界に見立てて「波もなし」と言い切ったところに、穏やかな雰囲気とそこに込められた新年の静かな決意
を感じられる。この句を好む書道家は多い。